

5 ストックの育種による産地の活性化

淡路のストック

淡路では旧津名町、一宮町を中心に無加温で栽培できるストックが10月下旬から5月まで出荷されている。市場では中生品種の「アイアン」シリーズが主流で、淡路ではこのシリーズを中心に開花調節や、在来品種を組み合わせた作型により長期間にわたり出荷していたが、近年は原油高騰等の影響により、無加温栽培の競合産地が増加し、産地間競争が激化してきた。このような状況下で、淡路では経営の安定、産地の維持拡大を図るため、オリジナル品種の育成による他産地との差別化を進めている。

伝統の技と淡路ストック研究会

歴史のある切り花産地には地域にあった品種を作出する育種家による品種改良、産地の発展が同時進行していることが多い。淡路のストックでは旧津名町の育種家を中心に育種が続けられてきている。

ストックの交配種子を得るためには、切り花栽培とは逆の一重花の鑑別作業が必要となり、また播種時期等の栽培管理も切り花とは全く異なる。

そうした中で、育種や採種技術の確立と継承、淡路にあった品種系統の作出を目標に、育種家、切り花生産者、関係機関により淡路ストック研究会を組織し、オリジナル品種育成の取り組みを進めている。

2006年からは、「アイアン」シリーズに負けない茎の硬さを持つ早生系品種の作出を目指し、17パターンの交配組み合わせによる新品種育成に取り組んでいる。これまでに生産者と淡路農業技術センター、北淡路農業改良普及センターが共同で選抜を繰り返し、2009年秋には8つの交配パターンの中から37系統のF₄世代を栽培し、優良系統の選抜と固定化に向けた取り組みを計画している。

産地の変化

当研究会における現地研修会では会員の意識も非常に高く、草姿や花色など商品性の高い形質を持つ系統の選抜に余念がない。

ストック生産者には20歳代の後継者3人が新たに就農し、当研究会にも加入して若返りがはかられている。淡路ストック研究会の新品種育成への期待はますます高まっている。

石井 康史（北淡路農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：0799 - 62 - 0671）



研究会による選抜作業



ピンク系の有望系統